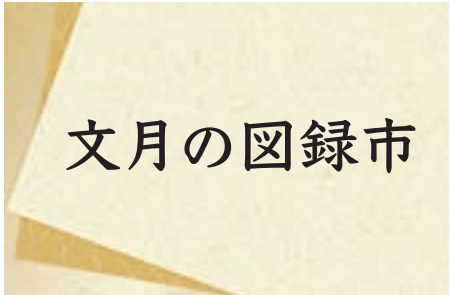


◆インフォメーション



文月の図録市

もりおか歴史文化館では、開館記念月にあたる7月に一部図録を半額にて販売いたします。

- 期 間：2025年7月1日（火）～7月31日（木）
- 対象図録：2020年度までに刊行された図録
- 対象図録を7月以前にお買い求めのお客様にはオリジナルブックマーカーを1冊につき1つ差上げます
- オンラインショップでも、「文月の図録市」を開催いたしますのでご利用ください

図 録 名	価 格	割引後価格
「あの日あの時の盛岡 –馬のいた風景–」	500円	250円
「旅の枝折 –みちのく観光のみちしるべ–」	500円	250円
「盛岡の指定文化財 –未来への贈り物–」	700円	350円
「盛岡南部家の生き方・第1部 –乱世を切り抜けた南部家と盛岡のはじまり–」	1,000円	500円
「南部鉄器 –時代を超えた鐵の美–」	1,000円	500円
「盛岡南部家の生き方・第2部 –揺らぐ盛岡藩に立ち向かう南部家–」	1,000円	500円
「ANIMALs×morioka –資料の中の動物たち–」	700円	350円
「盛岡南部家の生き方・第3部 –盛岡藩の終焉と南部家が繋ぐ未来–」	1,000円	500円
「衣装と意匠 –武家のよそおい–」	700円	350円
「殿さまのギフト –贈り物にみる盛岡藩・南部家の結びつき–」	1,500円	750円
もりおか歴史文化館収蔵資料図録1「水虎之図」	1,000円	500円
「SHIGEKI –盛岡藩沿岸を測量した男–」	1,500円	750円

ご利用案内

〈開館時間〉4月～10月 9:00～19:00(2階歴史常設展示室への入場は18:30まで)
11月～3月 9:00～18:00(2階歴史常設展示室への入場は17:30まで)

〈休 館 日〉毎月第3火曜日(祝・休日の場合は翌日) 12月31日～1月1日

〈入 館 料〉入館は無料です。

2階展示室のみ有料となり、右記の入場料が必要となります。

	個人	団体 (20人以上)
小・中 学 生	100 円	80 円
高 校 生	200 円	160 円
一 般	300 円	240 円

- 障がいをお持ちの方やその介護をなさる方(付添いを含めて2人まで)は、無料で入場できます。
- 盛岡市在住で65歳以上の方は、入場料が免除されますので、係員に証明書をご提示ください。
- 盛岡市内の学校に就学している小・中学生の方は、入場料が免除されます。
- 企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要となる場合があります。

〈交通の案内〉 ●電車をご利用の場合 ○JR盛岡駅下車 徒歩20分
●バスをご利用の場合 ○岩手県交通・岩手県北バス
●車をご利用の場合 ○盛岡IC・盛岡南ICから車で25分
※当館の敷地内に一般車両の駐車スペースはございません。隣接する「盛岡城跡公園地下駐車場」(有料)など近隣の駐車場をご利用ください。



もりおか歴史文化館

〒020-0023 盛岡市内丸1番50号
Tel:019-681-2100 Fax:019-652-5296
<https://www.morireki.jp/>

もりおか歴文館だより

Rekibunkan News **Vol.**

17
〈2025.7.1 発行〉

- ◆館長だより「ふたば」vol.13
- ◆2024年度事業報告
- ◆歴文館レポート 特別展「南部鉄器展 ―受け継がれゆく美と技―」
- ◆歴文館レポート もりおか歴史文化館自由研究コンクール 第6回報告及び第7回開催のお知らせ
- ◆インフォメーション



「老松釜」 四代小泉仁左衛門、江戸時代中期～後期力 盛岡市指定有形文化財

光照寺の寺宝のひとつとされた四代小泉仁左衛門を代表する作品のひとつ。

蓋は摘みに向かって盛り上がる「盛蓋」、釜の胴部は不規則な波型に垂れ下がる「尾垂形」、口造りは上部で外側に反り、ややくびれた形の「繰口」仕様となっている。胴全体に松の枝葉模様が施され、摘み、鋳付ともに松笠をかたどっており、「松」をテーマに全体の調和を考えた四代小泉仁左衛門の造形力、技術の高さがうかがえる。



館長 だより ふたば vol.13

私は、時々盛岡城跡を散策します。本丸の東南、かつて三階櫓が建っていた場所に立ち東を望むと気象条件にもよりますが、早池峰山が見えます。

盛岡では岩手山、姫神山、早池峰山の三山を守護神として古くから信仰していたとのことです。奥羽山脈最高峰で雄大な姿の岩手山、左右対称の稜線を持つ美しい姫神山、北上山地最高峰の霊峰早池峰山の三山は現在も象徴的存在で、守りの役割を果たしていたことは容易に領けます。

さて、もう20年以上も前のことです。ある方からこんなお話を聞きました。記憶も断片的で思い違いもあると思いますがある方曰く、「古くは岩手山を西根山、早池峰山を東根山(岳)と呼んでいた。ある事情(具体的にお話しされていましたが、私は忘れてしまいました)で、東根山(岳)が早池峰山という名称になり、早池峰山の西向にある高い山に東根山の名称を授けた。盛岡藩は岩手山、姫神山、早池峰山、東根山の四山を守護神として四方を固めた」。岩手山を西根山、早池峰山を東根山(岳)と方角に因んだ名称を付け、四山で四方を固める。私は思わず膝を打ちました。

この稿を書こうと、このお話を書籍などで調べてみました。早池峰山はかつて東根岳と呼ばれていたことは確認できましたが、岩手山を西根山と呼んでいたとの記録は見つけることができませんでした。東根山の名称についても同様でした。当館の学芸員に聞いてみましたが、そのような記録は見当たらないとのこと。どうやら私の記憶違いかもしれません。

改めて本丸に立ち山並みを眺めてみました。南東に早池峰山、南西に東根山、北西に岩手山が見えます。北東にはビルに阻まれ姿は見えませんが姫神山がそびえています。地理的な面から西根山、東根岳という名称を冠し盛岡藩を囲む四山で四方を固めたというお話は、今なお私の中では魅力的です。

人々は岩手山と姫神山、早池峰山を守護神として信仰していましたが、一方ではこの三山の関係をめぐる有名な民話もあります。山を信仰し畏れを抱きつつ、擬人化してユーモアある愛憎劇をつくる、ギリシャ神話を彷彿とさせます。人々が生活の営みの中で自然と対話し、三山の位置関係を理解しようとした結果なのでしょうか。山は人々の暮らしと文化に深く関わっていたことがうかがわれます。もう少し探求してみたいテーマです。

さて、2025年4月17日、もりおか歴史文化館は来館者300万人を達成しました。300万人目にご来館いただいたのは市内在住の寺田龍太郎さん(32歳)と長女の悠乃ちゃん(2歳)親子。寺田さん親子は山車が好きで、週に何度か館まで足を運んでおられるようです。

このような方々に愛され支えられながら2011年7月1日に開館して以来、2015年9月には来館者100万人、2020年2月には200万人を超え、このたび300万人を達成することができました。

当館はこれからも、盛岡の歴史や文化に関する資料を収集・保存・公開する施設として、そして「歩いて楽しむまち盛岡」の観光・交流拠点として、開かれたミュージアムづくりに努めてまいります。

皆様のご来館を職員一同、お待ちしております。

令和7年7月1日

もりおか歴史文化館 館長 熊谷 俊彦



◆2024 年度事業報告

第41回企画展「We Love 温泉!! ―盛岡藩の湯治事情―」

【担当学芸員：小原祐子】

2024年4月27日(土)～7月7日(日)

日本では古くから温泉に親しんできましたが、庶民も盛んに旅に出掛けるようになった江戸時代においては、特に湯治への旅が楽しまれました。湯治の旅では、温泉で病気を治すばかりではなく、温泉への往復の途中に周辺の寺社や名所・景勝地へ立ち寄ったりしています。

本展では、江戸時代の盛岡藩の人々が湯治の旅に際して記した日記や紀行文などから、どのように温泉に親しみ、湯治に出掛けていたのかその実態を探りました。湯治の事例を人物ごとに紹介し、江戸時代の人々も現代の私たちのように温泉を楽しんでいた様子を伝えました。



第42回企画展「城の跡 ―残された盛岡城関連資料―」

【担当学芸員：熊谷博史】

2024年8月10日(土)～10月27日(日)

当館として10年ぶりとなる盛岡城の企画展。盛岡城の実態を示す資料を可能な限り紹介することで、改めて盛岡城の魅力や奥深さを知っていただこうと企画。これまでに広く知られている資料はもちろん、当館では初展示の資料も含め、盛岡城が描かれ・記された館蔵資料を多数展示しました。その他、今回ご協力いただいた盛岡城復元調査推進室の役割や成果を紹介するコーナーでは、新たに確認された盛岡城関連資料(個人蔵)も展示し、また同時期に企画展「盛岡城の石垣」を開催していた、盛岡市遺跡の学び館とのコラボイベントも実施しました。



第43回企画展「蓬莱図をよむ ―描かれた理想郷―」

【担当学芸員：福島茜】

2024年12月1日(日)～2025年2月17日(月)

本展は、2011年の開館以来、当館収蔵の屏風の中でも特に公開機会の多い作品でありながら、その画題や表現についての調査が為されて来なかった「蓬莱図屏風」を掘り下げ、眺めるだけの行為から一歩進んだ鑑賞体験を提供することを目的として企画しました。絵画作品を理解するため必要な情報は、大きく分けて①画題(何が描かれているか)、②作者、③材質・技法、④制作背景の4点ですが、今回は①に焦点を当て、「蓬莱とは何か」という問いを通じて「蓬莱図屏風」に描かれた風景の意味を紐解くことを試みました。

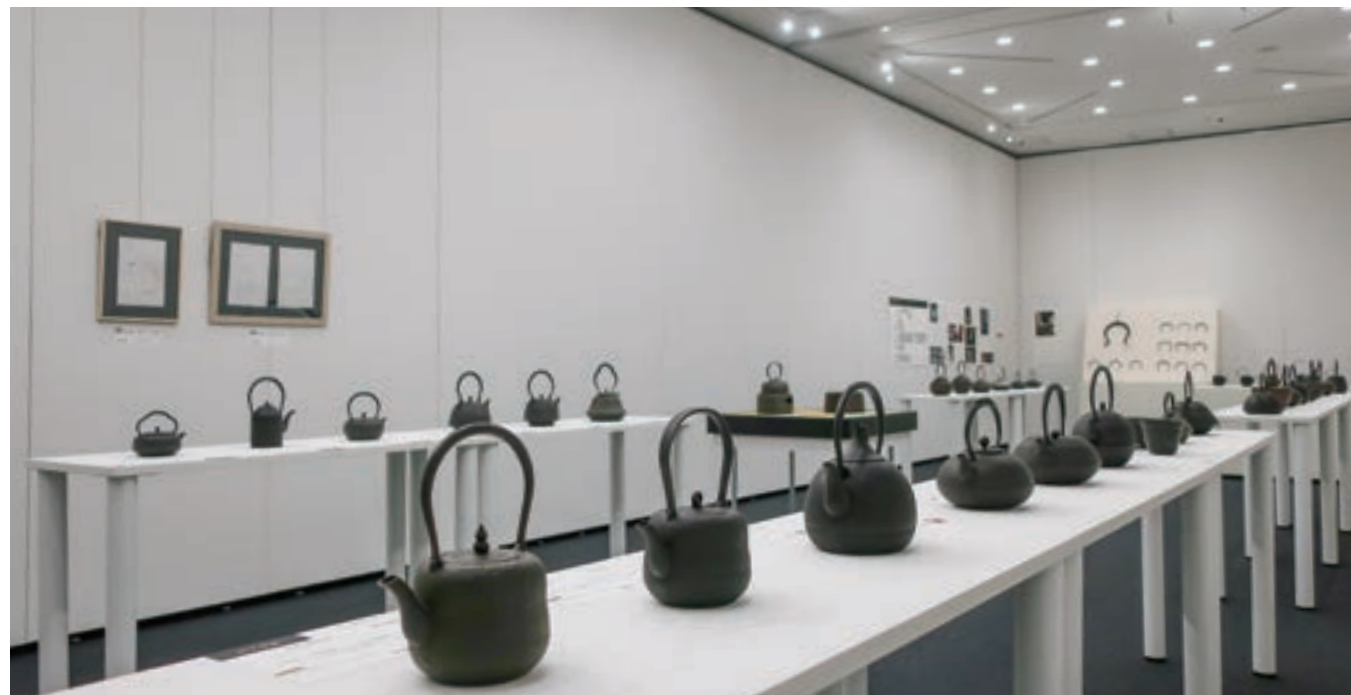


会期：2025年3月1日(土)～3月17日(月)

特別展「南部鉄器展」は2020年度から始まり、今回で4回目の開催を迎えました。盛岡市を中心に工房を構える職人20名から、あわせて39点(50種)もの力作が集まり、どの作品も伝統の技術を守りながら、ライフスタイルにあった姿形、使いやすさを模索し、新たなことに挑戦しつづける職人の熱意が伝わってきました。

会期中に開催したギャラリートークには山田真氏(虎山工房)、畠山拓巳氏(薫山工房)、阿部亘氏(岩鑄)にご出演いただき、制作方法やこだわり、苦心した点など作者本人だからこそ話することができる内容に、参加者の皆様はとても関心を寄せている様子でした。新たな企画である「南部鉄瓶のお湯試飲会」は共催者である南部鉄器協同組合からご提案いただいたもので、こちらも大変好評でした。実際にお湯を飲んだ皆様が南部鉄器に興味を示し、本展だけでなく、実際に工房に足を運ばれるなど、南部鉄器への興味・関心を高める非常に良い機会となったと思います。お気に入りの作品を最大3点まで選んで投票していただく「観覧者作品投票」は、1,380票もの票が集まりました。次ページに観覧者作品投票トップ3、そして今回の出品作品をご紹介しますのでご覧ください。

作品を出品してくださった職人の皆様、多方面に渡りご協力いただいた南部鉄器協同組合の皆様、そしてご来場・投票に参加してくださった皆様にこの場を借りて改めて御礼を申し上げます。今後も岩手県、盛岡を代表する伝統工芸である南部鉄器の歴史と伝統、その魅力をより多くの皆様に伝えることができる場となれるよう努めてまいります。



展示室全体の情景



ギャラリートークの様子



南部鉄瓶のお湯試飲会の様子

◆第1位「南部砂鉄鐵瓶 夜桜」 121票

制作：田山和康(田山鐵瓶工房)

受賞コメント

下地の漆の黒と砂鉄研ぎの桜の花とのコントラストが夜桜として共感を得たのではと考えています。また、季節柄、桜の模様付が良かったかもしれません。これからも一目見てわかるような作品づくりをしたいと思います



◆第2位「くじら鉄瓶」113票

制作：三代目清茂【八重樫】(株式会社岩鑄)

＊作品紹介コメントより

平成10年に製作した鉄瓶のリメイク作品。蓋を傾ける事で2つの課題をクリアしました。

①お湯の吹きこぼれを解消

②蓋をおさえる事なく片手で最後まで注げる

IHヒーターにも使え、熱源を選びません。鉄瓶のかたちが、海面から顔を出したくじらの姿と見立てて作品名にしました。



◆第3位「鉄瓶 猫」87票

制作：澤野諒和(鈴木盛久工房)

＊作品紹介コメントより

猫をモチーフに2種作りしました。伸びをしている親猫と子猫です。子猫の方は、指でつまんだ時に首根っこがつまれた様子になるようにしました。



特別展「南部鉄器展 ―受け継がれゆく美と技―」 出品作品一覧

出品作品一覧



南部型鉄瓶 風神雷神図
畠山拓巳／(有) 薫山工房



Walking Lily
宮田康矢／タヤマスタジオ(株)



切合せ鉄瓶風炉
村井秀行／(有) 鈴木盛久工房



焼口平底陶釜
鈴木盛久／(有) 鈴木盛久工房



筋紋阿弥陀堂形鉄瓶
鈴木盛久／(有) 鈴木盛久工房



鈴形鉄瓶
鈴木盛久／(有) 鈴木盛久工房



尾垂傘形鉄瓶
鈴木盛久／(有) 鈴木盛久工房



南部砂鉄鐵瓶 夜桜
田山和康／田山鐵瓶工房



平布団型鉄瓶 八重櫻
佐々木健二／(有) 薫山工房



平布団型鉄瓶 霞
佐々木健二／(有) 薫山工房



変わり鉾十三種
菊池翔／絃屋



小寸胴ケトル
阿部亘／(株) 岩鋳



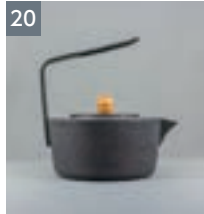
小寸胴ケトル 【変わり鉾】
阿部亘／(株) 岩鋳



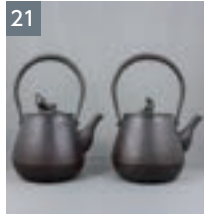
sei ー静ー
吉田真也／(株) 岩鋳



sei ー静ー 【プロトタイプ】
吉田真也／(株) 岩鋳



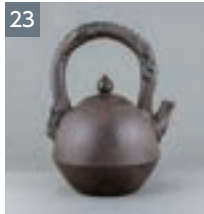
くつろぎミニ 片手鉾
佐々木健二／(有) 薫山工房



鉄瓶 猫
澤野諒和／(有) 鈴木盛久工房



鉄瓶 蜥蜴
澤野諒和／(有) 鈴木盛久工房



宝珠型龍鉾鉄瓶
澤野諒和／(有) 鈴木盛久工房



独楽型鉄瓶
畠山拓巳／(有) 薫山工房



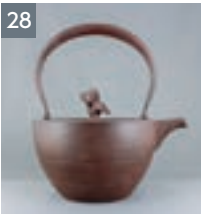
布団型鉄瓶 シマネナガ
畠山拓巳／(有) 薫山工房



珠玉型焼口鉄瓶
カエルのかくれんぼ
畠山拓巳／(有) 薫山工房



鉄瓶 紫陽花
澤野諒和／(有) 鈴木盛久工房



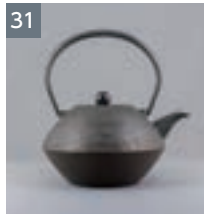
鉄瓶 金魚
澤野諒和／(有) 鈴木盛久工房



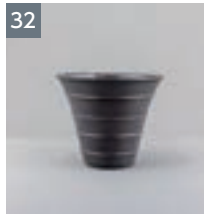
くじら鉄瓶
三代目清茂(八重壺)／(株) 岩鋳



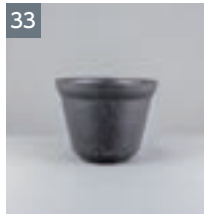
流水紋鉄瓶
大村敏宏／釜定



算玉型鉄瓶 水面
阿部亘／(株) 岩鋳



鉄鉢植え 流転
畠山拓巳／(有) 薫山工房



鉄鉢植え 波濤
畠山拓巳／(有) 薫山工房



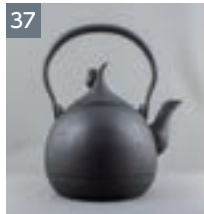
鉄瓶 明星
小熊愉吉／釜定



鉄瓶 然
宮昌太郎／釜定



布団型鉄瓶 みのり(環模様)
葛巻元／紅蓮堂



でこ瓶
高橋大益／鉄瓶工房高橋



鉄瓶 くびれ
山田真／(株) 虎山工房



鉄瓶 ひさご
山田真／(株) 虎山工房

◆歴文館レポート「もりおか歴史文化館自由研究コンクール 第6回報告及び第7回開催のお知らせ」

【担当学芸員：太田梯子】

もりおか歴史文化館自由研究コンクール、通称「モリガク」は2018年から活動を開始した歴文館サポーターズふたば(2019年度まで活動)の事業企画部に所属していた、盛岡の高校生の提案から始まりました。

2020年度のコロナ禍の中止をはさみ、2024年には第6回のモリガク作品展と表彰式を開催いたしました。遅くなりましたが、ご応募いただいた58名の小学生の皆様、力作のご応募ありがとうございました。第6回モリガクでは、はじめて学年単位でのご応募もありました。「盛岡の先人の調べ学習」をとりまとめてお届けくださった太田東小学校4年生の担任の先生方、ご尽力いただきありがとうございました。

第7回モリガクも、小学生の皆様のご応募をお待ちしております。盛岡の魅力を多くの人に知ってもらいましょう！学年単位、盛岡市外・岩手県外からのご応募也大歓迎です。学校での展示の後に、ぜひモリガクへご応募ください！

もりおか歴史文化館では、夏休みに自由研究の進め方を分かりやすく解説する「How to 自由研究パネル展」を開催いたします。皆様の盛岡の歴史や文化に対する相談や質問は、いつでも受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

〈令和6年度受賞作品〉※学校名、学年は受賞時

【最優秀賞】	「盛岡三大麺の1つ！ わんこそばのヒミツ」	：仁王小学校	6年生	関下璃々さん
【優 秀 賞】	「もっと知ろう高松の池」	：上田小学校	4年生	齊藤亮也さん
	「校歌のいみをしらべた」	：杜陵小学校	2年生	茨木陸心さん
	「南部利剛のやりとげた事」	：太田東小学校	4年生	外村拡也さん
【館 長 賞】	「原敬の生き方、人生、どのようにしてすごしてきたかについて」	：太田東小学校	4年生	眞壁 桜さん



◆第7回もりおか歴史文化館自由研究コンクール

応募期間：9月1日(月)～9月30日(火)
作 品 展：11月1日(土)～11月24日(月)
※詳細については、応募期間が近づきましたら当館公式ホームページなどで、情報を公開いたします。

◆How to自由研究パネル展

日 時：7月16日(水)～8月18日(月)
場 所：1階 祭り企画展示室